

ソ連の動向重要日誌

1 月

1 日 ▶KGB 議長警告——アンドロポフ・ソ連国家保安委員会 (KGB) 議長はソ連邦エストニア共和国の党・政府指導者に対する演説で「対西側緊張緩和と外交は限界と危険性がある」と警告した。

▶1973年のチュメニ油田——1973年には、石油の日産量で西シベリアはソ連第1位に進出した。1973年には西シベリアはタタールの油田を超越し原油1億1620万トン採取するだろう。そのうちサモトロールの産出量は6000万トンになるとプラウダ紙は報じた。

2 日 ▶ソ連駐印大使にビクトル・マルツェフ任命。

▶ソルジェニツィン氏を非難、タス通信。

▶ザバイカル道鉄100キロメートル電化終る——プラウダ紙によれば、チタ駅から最初の電化列車が石炭と木材を積載して東に向かい出発した。

3 日 ▶アンガラ川の電力資源開発——ウスチ・イリム水力発電所建設では、今年中の最初の発電機(複数)が操業にはいる運びになっている。ブラーツクからウスチ・イリムスカヤまで送電線建設は山や川、湖を越え1300本の支柱をたてて進んでいる。

4 日 ▶逮捕も覚悟、とソルジェニツィン氏語る——ソルジェニツィン氏は、ソ連の秘密警察、強制収容所の実態を暴露した新作「収容所列島」の国外出版に踏み切ったことで、逮捕を覚悟していることが4日明らかにされた。

▶1973年のソ連出国ユダヤ人数3万5000人に達す。

5 日 ▶アムール河横断氷上鉄道運行開始。

10 日 ▶シリアにソ連製ミサイル配備。

11 日 ▶澄田輪銀総裁、ヤクート開発の対ソ、バンクロンで米国と条件協議と語る。

▶プラウダ紙、田中首相の東南アジア訪問を論評。

13 日 ▶ビリビノ原子力発電所第1発電機稼動——ソビエト・ロシア紙、ビリビノ通信によれば、チュコトカ民族管区のビリビノで建設中であった原子力発電所では、1月12日工業電力を発電しはじめた。出力は1万2000キロワットである。

14 日 ▶西シベリア製鉄所の第2転炉建設。

18 日 ▶《アンガルストロイ》の建設——《アンガルス

トロイ》(アンガラ建設)の作業隊は、昨年10月革命記念日を前にフレブトワヤ=ウスチ・イリムスカヤ間214キロメートルの鉄道を完成した。

▶思想闘争強化を強調、スースロフ・ソ連政治局員。

20 日 ▶中国、ソ連大使館員5人を国外追放。

21 日 ▶大使館員追放でソ連、中国に抗議文。

22 日 ▶社会主義諸国党書記会議モスクワで開く。

25 日 ▶前年比45%増、73年の日ソ貿易総額。

▶ソ連、エジプトに経済使節団。

▶73年経済実績——ソ連統計局は25日、昨年の国民経済計画遂行実績を発表、工業生産は目標の5.8%に対し、7.4%、農業は前年度に比べ14%それぞれ増大し、また国民所得は目標の6%に対し、6.8%増大した。発表の具体的内容は次のとおり。①主要工業生産の大部分は計画を超過達成、特に電子工業、化学工業、機械製造、建設資材工業は高い成長率をみせた。②工業の労働生産性は6%増で、これによって生産増大の82%が確保された。③個々の生産高は電力9150億キロワット時(7%増)、石油4億2100万トン、ガス2360億立方メートル(7%増)、石炭6億6000万トン(2%増)、鉄鋼1億3100万トン(5%増)、鉱物肥料7230万トン(9%増)である。④穀物生産は2億2250万トンという記録の豊作で、このうち小麦は1億0970万トン、トウモロコシは1340万トン、米は180万トンの実績を上げた。⑤国民所得は約3330億ルーブルで、このうち労働者、勤務員給与は3.7%、コルホーズ員(農民)は5.9%増大した。最低賃金は月間70ルーブルに達した。

28 日 ▶日ソ漁業専門家会議開かる。

▶ソ連、MIRVを実戦化と米国防総省発表。

▶ブレジネフ書記長キューバへ。

30 日 ▶ノボシビルスク市内の交通難——プラウダ紙編集部は、ノボシビルスク市内の旅客輸送の不良について沢山の投書を受けとっている。このように激しい苦情の殺到は他の都市ではみられない。新しい住宅地が急速に発展しているのに、バスはかえって少ししか動かなくなかったので、通勤ラッシュアワーは死にものぐるいで、バスもトロールバスも次々と満員で、押された横腹が長く痛むなどの苦情が寄せられている。

2 月

3日 ▶ソ連外相、ニクソン米大統領と会談。

4日 ▶ソ連・キューバ宣言発表——タス通信は、去る2日ハバナで、ブレジネフ・ソ連共産党書記長とカストロ・キューバ共産党第1書記兼首相によって調印された「ソ連・キューバ宣言」の内容を伝えた。

6日 ▶新交換レート——ソ連国立銀行は6日、各国通貨の新交換レートを発表した。新交換レートは次のとおり（カッコ内は1月初めに発表されたレート）。1004西独マルク=27.95ルーブル（28.79ルーブル）▷100米ドル=79.00ルーブル（75.36ルーブル）▷1000円=2.63ルーブル（2.67ルーブル）。

▶「収容所列島」を擁護、ソ連の反体制歴史学者メドベージェフ。

9日 ▶中ソ戦争の可能性と英軍事専門誌——英国の軍事問題専門紙「アームー・クォーター」は9日、「中ソ国境線に両国が過去1年間配置した兵力の展開ぶりからみて、今年夏にも中ソ戦争がばつ発する可能性がある」と論評した。

12日 ▶ソルジェニーツィン氏逮捕さる。

▶即時釈放をソ連に要求、国際ペンクラブ。

13日 ▶ソルジェニーツィンの市民権剥奪、国外追放、家族の出国認めるとタス通信発表。

▶ソルジェニーツィン氏、アエロフロート機でソ連官憲と共に西独フランクフルトに到着——西独外務省差し回しの車でボンの西方アイフェル山中ランゲンプロイヒ村に住む72年度ノーベル文学賞作家ハインリッヒ・ベル氏の山荘に入り、5分間記者会見した。

▶ソルジェニーツィン逮捕は全世界への侮辱とサハロフ博士語る。

▶日本の知識人、抗議声明出す。

▶ソ連の反体制派が当局非難——ソルジェニーツィン氏を弁護するソ連の反体制知識人グループは13日、ソ連当局を激しく非難する声明を発表した。

▶ソルジェニーツィン氏逮捕、西欧各界に衝撃。

15日 ▶ソルジェニーツィン氏追放、仏共産党が支持、イタリア共産党は非難。

17日 ▶ソ氏支持の作家に警告、作家同盟から除名。

▶ソルジェニーツィン氏にスイスが永住ビザ。

18日 ▶仏の石油外交支援とグロムイコ外相語る。

26日 ▶チュコト民族管区に新地区創設——ロシア共和国最高会議幹部会議令によって、このほどチュコト民族管区に、もうひとつの新しい地区としてシミットフスキー地区が創設された。

27日 ▶シリア大統領と会見、ソ連外相——ソ連のグロ

ムイコ外相は、キッシンジャー長官がイスラエルに向けダマスカスを離れたあと、入れ代わりに27日突然、シリアを訪問、アサド大統領と会見した。

3 月

1日 ▶対ソ貿易、米、輸出でトップ、輸入は2年連続日本——73年の非共産圏諸国の対ソ貿易は輸出では米国の輸出が11億9000万ドルで、西独（11億5300万ドル）を抜いて1位となり、輸入は日本が10億7800万ドルと前年に続いて首位となった。往復貿易高では西独が18億9100万ドルと2年ぶりに首位に返り咲いた。

2日 ▶マガダン飛行場完成——プラウダ紙によれば、マガダン市に毎日1万人の来客を輸送できる新しい航空ターミナルが完成した。

3日 ▶ドイツ系市民が反政府デモ、エストニア共和国タリン市で。

4日 ▶ユダヤ人70人を逮捕——16人のユダヤ系ソ連人が署名した“公開状”によると、ソ連当局はモスクワでユダヤ人によるデモ計画を阻止するため、2月28日と3月1日の2日間、国内の数都市で70人を逮捕した。

9日 ▶サモトローラーアレクサンドロフスコエ間石油パイプライン着工。

14日 ▶ソ連、金放出去年は280トン。

15日 ▶ブレジネフ書記長アルマ・アタ着。

16日 ▶ソルジェニーツィンの全作品、図書館から撤去指示。

17日 ▶グラゴベシチェンスクヘウクライナ、白ロシアから農業移民到着。

18日 ▶リトビノフ氏、ソ連を去る。

22日 ▶ゼーヤ水力発電所建設状況——プラウダ紙によれば、アムール州で建設中のゼーヤ水力発電所では基礎に50万m³のコンクリートが打込まれ、発電所建物にもコンクリートが打込まれた。

▶ソ連首相と会議、日ソ経済合同委代表団。

23日 ▶日ソのカニ交渉日本側が大幅譲歩。

24日 ▶対中国予防戦争ソ連の準備進む、と東欧情報、伊紙が紹介——24日付のイタリア紙「イル・グロボ」は信頼できる東欧筋の談として、さる14日に中国領内に不時着したソ連のヘリコプターもKGB（ソ連国家保安委員会）の空中偵察部に所属し、モンゴルのアルタイ山脈と新疆地区の接点でスパイ活動を行っていたとみられると伝えた。この東欧筋によると、ソ連指導者内には予防戦争について2つの考え方があり、1つは早期予防戦争賛成論で「現在の軍事力の優位により、ソ連は一撃のもとに中国のミサイル基地、爆撃機基地、蘭州近くの原子力施設、核実験場を破壊できる」という見方である。

第2のグループはこの作戦の政治的“代価”および国際共産主義運動に与えるはね返りを恐れ、毛沢東主席以後まで待ち、その虚に乗じて北京内部の親ソの傾向の助長の道を選ぶようとしているという。

25日 ▶ブレジネフ・キッシンジャー会談モスクワで始まる。

26日 ▶ソ連、出光興産へ対日原油輸出断る——出光興産が26日明らかにしたところによると、ソ連石油輸出公団との間で進めていた49年のソ連原油の輸入交渉が不調に終わり、輸入期待できない見通しになった。ソ連側は、これまでチュメニ原油を日本向け積み出し港のナホトカまで貨車輸送していたが、最近、チュメニから東欧圏への供給に便利なソ連西部地域へのパイプラインが完成、極東への輸送コストが割高になるので、日本向け輸出のメリットがないこと、さらに、ソ連が従来中東産油国から購入し東欧圏に供給していた分を、先ごろの中東原油の大幅値上げ以来、ソ連国内産のものに切り替えたなどの理由により、対日輸出の余力が少なくなったためとみられる。

27日 ▶米ソモスクワ会談終わる。

▶政治局緊急会議——訪ソ中のキッシンジャー米国務長官とブレジネフ・ソ連共産党書記長の3回目の会談は27日午前11時(日本時間同午後5時)、クレムリンで開かれる予定だったが、ソ連側が同日、共産党政治局の緊急会議を開いたため延期された。

28日 ▶チュメニ開発、バム新線、81年に間に合わず。

29日 ▶ソ連「中東10月戦争」で謀略行動とサダト大統領が暴露。

▶SALT 失敗はソ連軍部の圧力。

▶シベリア開発慎重にと外務省確認。

▶西カムチャッカのタラバ、全面禁漁を提示。

▶ユダヤ人援護委員会の英議員ら4人のソ連入国を拒否。

31日 ▶ソ連、再びナホトカ精油所建設で日本へ協力を要請。

▶ソ連外務省スースロフ第2欧州部長、豪州入り。

4月

1日 ▶樺太の原発構想、京浜まで長距離送電。

▶豪州に共同科学基地をとソ連が提案。

2日 ▶政府、対策申し入れへ。日本近海のソ連サバ漁——ソ連漁船団が、伊豆沖でサバ漁獲を始めたため、日本近海でわが国の漁業用具などに大きな被害を与えているので、政府は近くソ連に対し、日ソ専門家会議を開いて対策を話し合うよう申し入れることにした。

▶チュメニ開発への“借款”ソ連31億ドルを日本に要

求。

3日 ▶石油生産——3日のタス通信によると、ソ連の今年1月から3月までの石油生産高は、昨年同期に比較して8.2%増の1億1000万トン記録した。

▶駐エジプト大使を更迭。

▶損害賠償申し入れ、ソ連へ4年間の日本漁船の漁具被害。

4日 ▶農業開発15年計画——「ロシア共和国非黒土地帯農業開発措置」計画で、350億ルーブル(約450億ドル)の巨費を投入、これまでソ連農業の本拠となってきた「南」の黒土地帯に対して「北」の農業開発をしようというもの。

▶ソ連学生代表エジプトから抗議の帰国。

5日 ▶対日石油2500万トンは11年後からチュメニ石油を供給。

▶ソ連首相と田中首相会見——故ポンピドー仏大統領の葬儀に列席のため、パリに向かう田中首相を乗せた特別機は5日午後3時15分(日本時間同9時15分)、給油のためモスクワ・シェレメチェボ空港に着いた。ソ連側からコスイギン首相、フィリユービン外務次官らが出迎えた。田中首相は出発までの約1時間、空港内の貴賓室でコスイギン首相と話合った。

▶第2シベリア鉄道建設、日本の協力とは無関係と駐日ソ連大使が強調。

▶チュメニ原油は鉄道輸送に転換と、植村、永野氏語る。

10日 ▶海洋調査船《ドミトリ・メンデレエフ》号太平洋、インド洋で活動。

13日 ▶キルギズの農業——昨年キルギス共和国の農民は120万トン以上の穀物を収穫した。

▶タジキスタン今年の農業——ヘクタール当たり2.3トンの綿花を収穫。

▶ソ連・シリア共同声明モスクワで調印。

14日 ▶ソルジュニーツィン氏書簡は空想的とサハロフ博士非難。

15日 ▶10年間に石油生産3億トン、チュメニ油田。

16日 ▶住民避難計画検討再開、米国防省、ソ連の核攻撃に備え。

17日 ▶反体制作家ネクラーフ氏を拘留、ソ連当局、一夜で釈放。

18日 ▶激しくソ連を非難、「武器は、他国から購入する」とサダト大統領。

▶ワルシャワ会議、声明を発表し開幕。

22日 ▶第2シベリア鉄道はソ連の自力でとアルヒーモフ次官語る。

▶訪ソのケネディ議員、大統領級の扱い。

▶シベリア開発、対ソ銀行借款きょう調印。

▶ソ連の攻撃避けチベットに中国が新核実験場と英紙が報道。

23日 ▶日本政府、米不参加決まればチュメニは断念か。

24日 ▶ソ連の穀物作付け遅れる。

▶プ書記長、石田博英氏と会談。

25日 ▶石田氏帰国談——自民党の石田博英代議士（日ソ議員連盟会長）は25日午前11時30分羽田着日航機で帰国した。この後空港内で記者会見し、ソ連側は第2シベリア鉄道の建設問題について日本が軍事的・政策的に扱っていることに対し強く反発していたとのべた。

26日 ▶ボラリス潜水艦探知衛星。

▶サハリン大陸ダナの探鉱も、日本1億ドルの機材提供。

▶ヤクート天然ガス開発・探鉱促進に調印。

27日 ▶旅客機レニングラードで墜落、死者100人以上。

29日 ▶バイカル＝アムール鉄道建設に参加するコムソモル建設隊——4月27日夜遅く、モスクワのヤロスラヴスキー駅から、作業着に新建設の記章をつけた600人以上の青年建設隊がバム鉄道建設に向かった。

30日 ▶西シベリア製鉄所で大型転炉稼働。

▶南ヤクート原料炭、日ソ開発覚書に調印。

5 月

2日 ▶科学アカデミー祝賀行事、説明もなしに中止、海外向け招待状も取り消し。

5日 ▶ソ連工業の第1四半期——今年度第1四半期統計によれば、工業生産は昨年同期比8.3%増で、昨年の対前年伸び率7.3%を上回った。しかし、部門別で見ると、化学・石油化学や機械製作・金属加工などの昨年同期比14%増に対し軽工業は4%増と、重、軽工業両部門間の跛行化が昨年より一段と目立っている。

6日 ▶ヤクートのアルダンの採金シーズン。

7日 ▶コンプ協定延長、日ソ1年間合意。

10日 ▶バイカル＝アムール鉄道建設のため水気象（積雪、雪崩、雪解け、凍結等）調査計画。

11日 ▶ソ連貿易次官が訪中、貿易議定書調印。

▶ソ連、ナチスの戦犯ヘス釈放の要求を非難。

12日 ▶反体制派紙が再刊。

▶ソ連、天候不順で農民に呼びかけ。

13日 ▶北洋水域の罰金徴収事件、政府、ソ連に抗議。

▶ソ連文相一行が来日。

▶「建設に協力は困難」とサハリン原発、ソ連側に回答。

14日 ▶ウラジウォストークから北方航路開始——ウラ

ジウォストークの金角湾からアナドウィル湾へ砕氷船「モスクワ」号が出港した。

▶ソルジェニーツィン氏の協力者に5年間強制労働、2年間流刑の有罪判決。

17日 ▶高騰するソ連産石油代金。

20日 ▶レナ川航行開始。

▶ソ連、昨年の貿易20%増。

22日 ▶バミール高山地区への自動車輸送開始。

23日 ▶マガダン州の冬季自動車運輸終了——本日マガダン州の冬季自動車道による運輸シーズンは終了した。最後の自動車は貨物を積んで北氷洋岸沿いに走り、ミス・シミット、ポリャルスイおよびレニングラードスキーの鉱山労働者村を結ぶ雪道を通じた。今年コルイマとチュコトカでは3500kmの冬季道が活動した。厳冬と吹雪の困難を克服して遠い住民地へ54万トン以上の各種貨物を運んだ。まもなく地極の夜に代って昼が来り、ツンドラは通れなくなる。

▶アンガラ川上流航行始まる。

24日 ▶ソ連・西独鉄鋼所建設で調印。

27日 ▶イルトゥイシ川、今年の航行開始。

▶ソ連石油相「まだ日ソ間にチュメニ石油の交渉はない」と語る——ソ連のワレンチン・シャシン石油相は27日、モスクワ駐在のアメリカ人記者団との会見で、チュメニ油田の日ソ共同開発について「石油の取引については日本との間に何らの交渉も行なわれていない。日本側は交渉があったと思っているかもしれないが、私に関する限り何ら会談はなかった」と発言して注目された。

28日 ▶ソ連の文化相解任か。

▶シベリア開発計画「第2鉄道」が中核、8～10年に625億ドル。

▶作家ネクラソフ氏、ソ連映画同盟を除名。

30日 ▶ソ連の音楽家3人、長期の国外滞在希望。

31日 ▶タス通信がシャシン発言を否定。

▶ソ連最大級の地下核実験——ノルウェー地震研究所は31日、ソ連が同日未明、カザフ共和国東部の地下実験場で核爆発実験を行なったと発表した。

▶国境河川航行は中国の権利、中国外務省ソ連に反論。

6 月

1日 ▶15日から爆撃演習、南サハリン西方、2水域でとソ連が通告。

▶アムール州の大豆作付——アムール州の農民は、大豆を50万ヘクタールに、5月中旬に大部分をまき終わった。

2日 ▶トルクメン共和国農作物の取入れ始まる。

3日 ▶バイカロ＝アムールスカヤ幹線鉄道建設ニュース——バイカロ＝アムールスカヤ幹線鉄道西部地域の中ほどへ今日州の最初のコムソモル突撃建設隊が到着した。バム鉄道建設志願者は非常に多いが、厳選されている。

▶バイカロ＝アムールスカヤ幹線鉄道建設にオムスク大学生参加。

4日 ▶アムール川の支流ブッレヤ川に水力発電所建設計画。

7日 ▶石油輸出、73年度、10億ドルの増収——73年のソ連原油輸出量は1億1800万トンと前年に比べ5%増にすぎなかったのに対し、収入の方は前年の21億9000万ドルから31億7000万ドルと45%の大幅増を記録した。

▶中東からのソ連排除考えずとキッシンジャー長官記者会見。

▶税の二重取り避ける租税条約、日ソ間でも締結交渉。

8日 ▶チュメニ油田の現況——西シベリアの油田は、今年のはじめから4600万トンの原油を採取した。

11日 ▶ハバロフスク地方の林業と森林鉄道建設——オボール村（ハバロフスク地方）のスックパイ川流域の豊富な森林資源に向かって木材輸送鉄道の建設がはじまった。そこには2億 m^3 以上のエゾ松、トド松、ベニ松が集中している。

12日 ▶駐日ソ連大使を更迭。

13日 ▶バイカロ＝アムールスカヤ鉄道建設ニュース——クズネツク製鉄コンビナートの圧延工場はバイカロ＝アムールスカヤ幹線鉄道建設用として約5000トンのレールをすでに製造した。

14日 ▶サモトロール油田総計1億トンを産出——サモトロール油田は営業開始以来1億トンの原油を出した。

18日 ▶ヤクート採金業50周年記念行事。

19日 ▶ジュコフ元帥死去を確認。

20日 ▶第三世界の主導ねらうと、ソ連放送中国非難。

21日 ▶年4万5000人許可、ユダヤ人出国でソ連確約。

▶72年にキ長官「対ソ秘密協定」核ミサイルで譲歩か。

▶鉄鋼3閣僚非難さる。

22日 ▶ニクソン訪ソ前にユダヤ人40人拘留。

▶ユダヤ人移住問題討議か、米ソ首脳会議。

▶コメコン会議閉幕。

23日 ▶ソ連科学アカデミーのバイカロ＝アムール鉄道調査調整センター——ソ連科学アカデミー東シベリア支部はバイカロ＝アムールスカヤ鉄道経路に関する学者の調査調整センターを創った。

25日 ▶中国が対日干渉、ソ連紙が非難。

26日 ▶MIRV ソ連近く実戦配備。

▶グリゴレンコ、元將軍5年ぶりに釈放——反体制活

動のため精神病院に収容されたグリゴレンコ元將軍は、1969年5月に、クリミアへの帰還を求めるタタル人の運動を支援したかどでタシケントで逮捕された。その後「精神異常」との宣告を受け、何カ所かの精神病院に収容されていた。

28日 ▶インドネシア原子力開発、ソ連、東欧協力受け入れる。

▶アルゼンチン、対米自立ヘソ連と接近——ブエノスアイレス市内には、30人を越すソ連経済・技術専門家が次々に訪れ、さる5月両国が結んだ経済協力協定（6億ドル）のプロジェクトを協議している。最大のプロジェクトはラプラタ川上流のサント・グランデ水力発電所建設。このほか35万キロワットの火力発電所をブエノスアイレス郊外に造るなどである。

▶ソ連「200カイリ」認める、海洋法会議。

▶政治犯の釈放求めハンストを宣言、サハロフ博士。

▶流体力学のレビッチ博士にもイスラエル移住許可。

7月

1日 ▶ソ連領内の原発建設、政府、協力拒否を通告。

2日 ▶ニクソン大統領夫妻を迎えて、ブレジネフ書記長演説。

▶中ソが非難応酬。

▶米ソが核拡散防止訴え。

▶サハロフ博士との米テレビ会見の宇宙中継妨害。

3日 ▶米ソ、協定に調印——1週間にわたった米ソ首脳会談は、3日終日を迎え、共同声明のほか弾道迎撃ミサイル（ABM）制限、地下核実験制限、戦略兵器制限交渉（SALT II）の取り決めが調印された。

▶MIRV 交渉不調。

4日 ▶CIA 工作員がソ連に情報提供。

▶ソ連学者また亡命——ジェンキンズ英内相は4日、ソ連の言語学者ウラジミール・ツァリヌフ教授（35歳）とワレンチナ婦人および子息のアレクサンドル君（8歳）に向こう1年間の滞在許可を与えると発表した。これは同教授一家に対する事実上の亡命許可である。

6日 ▶捕鯨日ソ交渉中断。

7日 ▶ソ連、日本に対し領土放棄を迫ると人民日報論評。

▶北氷洋岸のチクシ港から日本へヤクートの木材輸送。

10日 ▶レナ川木材筏輸送開始。

▶タタール海峡鉄道フェリーの輸送量年100万トン。

11日 ▶中国、不可侵協定提案も無視とソ連広報文書で暴露。

▶ソ連、ソマリア友好協力協定締結。

14日 ▶日本の参院選、プラウダ論評。

▶党中央委、消費物資のおくれでウクライナ批判。

15日 ▶性教育にソ連の母親が猛反響。

▶キプロスクーデターでソ連に衝撃。

16日 ▶ハバロフスクからオホツク港へ直通航路。

17日 ▶中国は日本を属扱いとプラウダが非難。

19日 ▶今年上半期の工業生産——19日、ソ連中央統計局が発表したところによれば、今年上半年（1～6月）のソ連の工業生産は、昨年同期に比べ8.3%増加した。工業各分野別の生産の伸びをみると、機械金属加工12%、化学・石油化学11%、食品工業10%、木材加工、製紙工業、軽工業は各4%、燃料工業は5%。

▶キプロス危機でソ連7個師団警戒体制。

20日 ▶米、地中海で第6艦隊急派、キプロスでのソ連の動き、けん制。

22日 ▶ソ連の金産出量 387 トン。

24日 ▶イタリア外相訪ソ。

▶ソ連共産党中央委総会開く——24日ソ連共産党中央委員会総会がモスクワで開かれた。総会では25日から開かれるソ連最高会議の諸問題が審議され、これについての決定が採択された。総会ではブレジネフ党中央委書記長が演説を行なった。

▶米の盗聴器、ソ連から引き合い。

25日 ▶テレシコワ女史、幹部会員に——モスクワ放送によると、ソ連最高会議で新たに選ばれた最高会議幹部会の構成は次のとおり。議長：ポドゴルヌイ副議長、(14人)：15の各共和国最高会議幹部会議長。ただルーベン・ラトビア共和国最高会議幹部会議長が民族会議議長に選出されたため1人欠員。書記(1人)：ブレジネフ、グリシン、クナーエフ各氏ら従来のメンバーのほかに、ソ連婦人委員会議長のワレンチナ・ニコラエワ＝テレシコワ女史(宇宙飛行士)。

▶全線開通は82年か、第2シベリア鉄道。

▶最高会議開幕。

26日 ▶閣僚ほとんど留任——ソ連最高会議合同会議で満場一致承認されたソ連閣僚会議の名簿によると第一副首相(1人)、副首相(10人)をはじめ、あとで発表される国家労働・賃金委員会議長と国家価格委員会議長を除き、全閣僚が留任となっている。

▶南ヤクト炭開発で日ソ書簡交換。

28日 ▶チュメニ原油輸送に新方式——7月28日付ソ連交通省機関紙「グドーフ」は、ソ連 Gosplan (国家計画委員会) 参与のビリュコフ運輸部長の発言として紹介している輸送方法は、チュメニ採掘地区からパイプラインでタイシエツト駅へ送り、同駅でタンクローリーに積み、第2シベリア鉄道のウルガル駅まで運び、ウルガル

駅からは1000km以上のパイプラインで製油工場や港に輸送するというもの。

▶ソ連に穀物売り過ぎ、米国内の食糧急騰。

30日 ▶アジア集団安保構想「日本も支持国」とプラウダ紙論評。

▶ゼーヤ水力発電所貯水湖を渡るバム鉄道——ゼーヤ水力発電所のダムにできる貯水湖をバム鉄道が渡ることになる。支柱の高さ60m、梁間130m、橋の全長は1kmを越えるといっている。

▶反体制作家ウラジミル、マラムジン逮捕さる。

▶第2次 KS 計画一般協定に調印。

▶PLO 議長訪ソ。

31日 ▶カムチャッカ半島東岸、5日から射撃訓練、外務省、中止申入れ。

▶106番目の新元素、ソ連のドブナ原子核共同研究所。

8 月

1日 ▶第2シベリア鉄道、半分複線で着工。

▶PLO 正式に承認。

2日 ▶チュメニ原油、一部はパイプ輸送に計画変更？

▶ソ連とも郵便業務、韓国から発表。

3日 ▶国際海峡は自由航行、潜水艦にも認める——政府はベネズエラの首都カラカスで開催中の国連第3次海洋法会議で焦点のひとつとなっている国際海峡の通航問題について、自由通航の立場から合意に努力する方針を決めた。

▶日ソ共同でサケ・マス養殖。

5日 ▶イルトゥシ川渇水で航行困難。

▶ソ連原油高騰で外貨不足解消。

7日 ▶ニクソン弾劾報道、ソ連でも漸く公表。

9日 ▶ニクソン辞任で米ソ協調かわらずとソ連政府機関紙が初論評。

10日 ▶ニクソンに未練示すソ連。

▶フォード米大統領、ブレジネフ書記長へメッセージ。

▶米大統領に祝電、ポドゴルヌイ議長。

12日 ▶ブレジネフ書記長、米大統領に親書。

13日 ▶黒海からソ連艦3隻地中海へ。

▶タス、米ソ協力を強調。

15日 ▶バム鉄道建設に親衛タマンスキー師団将兵の協力。

16日 ▶バム鉄道建設に極東民間航空局のヘリ10機が協力。

▶穀物輸送、貯蔵に支障——ソ連政府機関紙「イズベスチヤ」は16日、穀物輸送面に支障をきたしていることなどから、本年産穀物に大量の損失が出る恐れがあると

報じた。

17日 ▶バム鉄道建設ヤクーツクから砂利輸送——バム建設工事西部地域のために、ヤクーツク市からレナ川沿い上流 300 km の地点のエロフカ付近で砂利をさがし当てた。今年のレナ川航行シーズンの終わりまでに、鉄道建設工事をはじめたウスチ・カートへ 4 万 m³ の砂利を運ぶといっている。

18日 ▶ナロードニ銀行多額の政治融資。

▶中ソ国境交渉進展せず。

21日 ▶ソ連、ルーマニア関係冷却。

23日 ▶深海底開発で米、ソ、対立。

▶ソ連首脳訪日の意向、シチコフ最高会議議長、日本知事団に表明——訪ソ中の日本知事団（団長、西沢長野県知事）は23日午前、クレムリンにシチコフ・ソ連最高会議連邦会議議長を訪問し、約 1 時間にわたって懇談した。

▶日ソ知事会議終わる。

24日 ▶キプロス、ソ連提案の国際会議に反対。

28日 ▶ソユーズ15号 2 日間で帰還。

29日 ▶南氷洋捕鯨の海区別数、日ソ、モスクワで調印。

▶ソ連地下核実験。

▶ソ連の原潜西側と同数、ジェーン年鑑。

▶日ソ平和条約、訪ソして交渉もと木村外相答弁。

▶日本側、チュメニ参加断念か。

▶日ソ捕鯨交渉妥結。

9 月

3日 ▶重光、グロムイコ会談。

▶ソ連、エジプト再接近？

▶死後 3 年で、フルシチョフ氏の「笑顔の像」建つ。

▶米向けふえソ連減る昨年の中国貿易。

▶米国、エルパソ社、ヤクート天然ガス参加表明。

▶ウスチ・イリム水力発電所建設遅れる。

5日 ▶ゼーヤ水力発電所建設状況——ダムの第 1 部のコンクリートブロックが 65m の標識に達した。最初の 2 基の発電機の稼働開始は 1975 年末までと予定されている。

▶対円レート切り上げソ連国立銀行——ソ連国立銀行は 5 日、9 月の対外貨交換レート表を発表、対円レートについては前月の 1000 円 = 2.55 ルーブルを若干切り上げ、1000 円 = 2.50 ルーブルとすることを明らかにした。

6日 ▶ハバロフスク＝平壤間航空路新設。

7日 ▶松下電気、ソ連政府機関と提携。

▶エジプトへの武器供給、ソ連、再開を約束——ベイルートの親イラク系新聞ベイルートは 7 日、カイロ特電

で「ソ連はエジプトに対し武器と補充部品の供給再開を約束した」と報じた。

11日 ▶ソ連工業伸び悩む——11 日付のソ連労組機関紙トルードによれば、ソ連の工業生産は 8 月実績で昨年同月比 6.4% 増と、6 月と同じ今年最低の伸び率に落ち込んだ。

▶レニングラードからウスチ・イリム水力発電所建設へ発電機輸送——1 基 80 トンの巨大な機械は、最初の 2 基と同様に、水路輸送とし、フィンスキー湾、バルチック海を通り、スカンジナビア半島を回り、北の海を通り、エニセイ川をさかのぼり、クラスノヤルスクに到着した。

12日 ▶ソ連援助のダッカ肥料工場が爆発。

13日 ▶ソ連水中翼船シンガポールから東京着。

▶ソ連で地下核実験か。

14日 ▶ソ連、中ソ国境交渉を中止。

15日 ▶南千島諸島の返還問題、15 年前にソ連も了解と共産党合意書を公表して非難。

▶ソ連外相ボン入り。

16日 ▶ソ連、大陸間弾道弾の実験に失敗。

▶沿海地方今年の稲作——この秋は沿海地方では、2 万 5000 ヘクタールから米を収穫する見込みである。

17日 ▶ソ連首相、池田創価学会会長と会談。

▶ワルシャワ条約軍、ハンガリー集結。

18日 ▶モスクワ新見本市会場、日ソ、5 号館建設に調印。

19日 ▶米上院、対ソ信用供与を制限。

20日 ▶プラウダ紙、故徳田書記長を称賛。

▶バイカル湖の汚染防止——バルグジン、イタンツァトウルカなどの河川は数年前には魚は産卵しなかったが、今年の秋にはバイカル湖のオームリ（鯀に似た魚）は河川の上流に自由にさかのぼっている。

▶チュメニの林業組合木材年産 20 万 m³。

21日 ▶ナホトカに木材滞貨、日本の引き取り拒否響く。

24日 ▶クラスノヤルスクで大工業基地を計画。

25日 ▶ブレジネフ、フォード政権歓迎。

▶木村訪ソ、時期は保留。

▶国連総会で日ソ外相会談。

▶ソ連書記長、ハンガリー代表歓迎宴で演説。

26日 ▶ソ連ミサイル駆逐艦試験航海で爆発沈没——トルコのアナトリア通信が 26 日伝えるところによると、黒海を試験航海中のソ連ミサイル発射駆逐艦が艦上の爆発によって沈没した。

▶ソ連、ユーゴとの友好を強調。

27日 ▶ソ連海軍、アデン港利用拡大へ。

▶原産会議原発の安全、環境でソ連へ調査団。

▶イカ釣り漁船、沿海州沖でソ連船がだ捕。

▶スースロフ・ソ連政治局員イデオロギー引き締め表明。

28日 ▶バム鉄道西部区域の建設工程——プラウダ紙、《アンガルストロイ》(アンガラ建設)局の作業班は党中央委員会と閣僚会議の決定に応じて、次のように約束した。バム鉄道西部区域のレナ駅からバイカル・トンネルまでの284kmの貨物輸送を計画の期限より1年早く臨時営業にはいらせる。1975年中にレナ川開橋の建設を完了し、チュドニチヌイ駅までの列車運行を開始させる。1976年中にネベリ駅まで、そして1977年中にウリカン駅まで開通させる。バム鉄道西部地区に関する今年度の計画を10月15日まで遂行する。タイシエト＝レナ鉄道の複線を予定の期限より1年早く正常運転にはいらせる。

29日 ▶ヤクト天然ガス開発、日本の単独参加をソ連希望。

30日 ▶サハリン開発で新会社発足、社長は今里広記氏。

10月

1日 ▶レニングラードで80万kw級蒸気タービン連続生産へ。

2日 ▶コスイギン・竹入会談。

3日 ▶ソ連、8個弾頭SS18の発射成功。

▶工業生産、無理な計画おろす——ソ連は現行5カ年計画4年目あと第4四半期を残すだけとなったが、5年間で42%増という党指令の最低目標達成さえあふない。こんな絶望的な数字はおろされる見込み。

▶バム鉄道沿線の都市建設計画——バム鉄道建設と直接結びつく約60の住民地が生れ、そこに10万人以上が生活することになる。

4日 ▶プラウダ紙、産油国の石油政策弁護。

5日 ▶米大統領対ソ「穀物」出荷を停止——サイモン米財務長官は4日夜、フォード大統領が穀物の大口輸出商談につき、当分の間ホワイトハウスの事前の承認を得るよう大手穀物輸出業者に指示したと発表、同時にソ連向けに輸出が決まっていた穀物1億2500万ブッシェルの出荷停止命令が出されていることを明らかにした。

7日 ▶今年の上半期、ソ連世界最大の産油国、日産約900万バレル。

▶バム鉄道建設のブウレヤ川鉄橋架設着工。

8日 ▶ソ連最大の酸素転炉第2号、5カ月で100万トン生産。

10日 ▶西側諸国の対ソ貿易、日本は順位後退、9位から10位へ。

▶バム鉄道ヘディーゼル発電所——この発電所は比較的小型で、出力は1000kwを起立、気温 -40° から $+45^{\circ}$ までの気象条件下で使用できる。

11日 ▶海外石油開発とガルフマーズサハリン探鉱。

▶西側社会の経済危機は平和と安全に脅威とブ書記長外交演説。

14日 ▶ブレジネフ政権、成立以来10年。

15日 ▶米産業界、ソ連接近。

▶ブレジネフ書記長、米輸銀融資制限に警告。

▶EC、コメコンと関係強化。

16日 ▶駐日ソ連大使帰任、ブ書記長から田中首相へ親書。

▶ソ連マイカー族300万人の悩み——値段は小型乗用車で約220万円と高いうえに、しかもサービス・ステーションが不備なうえ部品の入手が極めて困難なため、駐車中の車は全部が全部といっているほどワイパーが外されている。盗難を避けるためである。部品が不足しているため、盗難品が高いヤミ値で取引される「市場」が存在している。故障車の修理も多大な精神的物質的エネルギーが必要で、動かない車を修理工場まで運ぶのがまず大仕事。工場でも修理が終わるまで長い間待たされる。サービス網の不足によるものである。

▶スペイン共産党との関係改善に成功。

18日 ▶アムール州今年の農作状況——5万7000トンのジャガイモと4万6000トンの野菜が供出された。

19日 ▶中国は米ソ核戦争望む、プラウダ紙が非難論文。

▶原子炉供与に同意か、ソ連、エジプトへ。

▶新聞《バム鉄道》発刊。

22日 ▶イルトゥイシ川今年の最後の航行。

▶サモトロール＝アレクサンドロフスコ間石油パイプライン開通。

25日 ▶チュメニ州北部＝モスクワ間大型ガスパイプライン稼働開始。

27日 ▶キ長官の訪ソ。

28日 ▶サハリン南部台風に襲われる。

▶ソ連人口6割が都市へ。

29日 ▶バム鉄道建設ニュース——プラウダ紙、第1シベリア鉄道のバム駅と第2シベリア鉄道のトゥインダの間ではレールの敷設が進んでいる。

▶極東最大のハバロフスク河川港、貨物取扱量100万トン。

11月

1日 ▶シートレード東京会議でソ連代表者演説。

2日 ▶今里氏、第6回日ソ経済合同委員会から帰国、

チュメニ油田開発断念の色を見せた。

▶サハリン州今年の農業成績——5万9000トンのジャガイモと3万1000トンの野菜が供出された。

11日 ▶トルクメン共和国綿花豊作——101万1000トンの綿花を納入した。

12日 ▶ウズベク共和国の綿花国家売渡計画超過遂行——520万トンを出出。

13日 ▶ソ連、来年に新型ミサイル配備と米国防省筋予測。

▶NATO 議会、ソ連のミサイル潜水艦、米國を追いこすと報告。

14日 ▶チュメニ石油本年度の成果——採油量は現在6100万トン以上。

▶ソ連文化相にルビョートル・デミチュフ任命。

15日 ▶キリレンコ政治局員、アシハバードで演説。

▶ヤクート自治共和国の冬季自動車運輸開始——ヤクート自治共和国の冬季自動車道は1万2000km以上あり、本シーズンは約50万トンの貨物が運ばれる予定。

17日 ▶西シベリア本年度産油量1億トン達成——西シベリアの石油産業は本年のはじめからの産油量1億トンを達成した。

20日 ▶シリア地対地ミサイル急増、ソ連が供与。

21日 ▶ウラジオでの米ソ首脳会談、第1回は列車の中の予定。

▶カラガンダ炭鉱の成績500万トン強。

22日 ▶仏、ソ連とウラン契約調印。

▶ソ連、太平洋艦隊司令長官を更迭——V. マースロフ中將が同司令長官として去る22日ウラジオストークに到着した。

▶日米ソ、ヤクート天然ガス探鉱で基本契約に調印。

23日 ▶米ソ首脳会談のためウラジオストークに到着——ソ連共産党書記長 L. I. ブレジネフは外相グルムイコ、駐米ソ連大使ドブリニンと共に、本日ウラジオストーク飛行場においてフォード米大統領を迎えた。なお飛行場ではソ連民航空相 B. P. ブッガエフ、沿海地方党第一書記 V. P. ロマキン、沿海地方党執行委員会議長 I. I. シトジン、赤旗極東軍管区司令官上級大將 V. I. ペトロフ、赤旗太平洋艦隊司令官海軍中將 V. P. マースロフ等も出迎えた。

▶米ソ相互に南北朝鮮承認か。

25日 ▶ソ連、米宇宙関係記者団の見学拒否。

▶イラン国王訪ソの真意——最近行なわれたパーレビ・イラン国王のソ連訪問の結果、イラン、ソ連両国は経済協力拡大で意見一致したが、ロンドンで得た情報によると今度の訪ソのねらいのひとつは、米中央情報局(CIA)がイラン現政権の転覆をはかった場合にソ連から支援を

受ける保証を取りつけることにあったといわれる。

▶中ソ、初めて「韓国」を呼ぶ。

▶米中間に警報組織、ソ連の攻撃に備えて——ワシントン・ポスト紙は25日付の一面に北京発の記事を大きく掲載、「中国は今年になって3回、ソ連の攻撃が差し迫っているとの警告を第3国から受け取った」と述べ、その第3国が米國であることは明らかである。

26日 ▶ブレジネフ書記長ウラジオストークからモンゴル共和国へ。

▶ブレジネフ書記長モンゴルで演説。

▶モンゴルでジュネーブ会議早期に開催をとブ書記長が呼びかけ。

▶MIRV 複数核弾頭米ソ同数に。

27日 ▶PLO 議長、ソ連首相と会談。

▶核運搬手段2400に米ソ首脳会談で合意。

28日 ▶イスラエル承認を PLO に説得、ソ連首脳。

30日 ▶バム鉄道建設電子計算機を用いてテスト——モスクワの鉄道運輸工業大学の《鉄道探査計画》部の専門家たちはすでに660 km をテストした。電子計算機《MIR=1》が用いられた。

12月

1日 ▶タジク共和国創設50周年祝典。

▶「赤い星」紙、ウラジオ会談に不満。

▶PLO アラファト議長訪ソ。

2日 ▶アムール州北部エベンキ民族のコルホーズに電話網設備。

▶反体制地下出版の元編集長逮捕。

▶「米ソ共同宇宙計画の準備」。

▶エジプトへ原子炉供与とソ連週刊紙報道。

3日 ▶サハロフ博士にニーバー賞。

▶イスラエル核装備説にアラブ諸國に対抗機運高まる。

▶米ソ首脳会議の成果ほとんどなし。

5日 ▶インフレの波ソ連にも——昨年12月にソ連では一連の食料品、消費物資が平均1.5倍から2倍に値上げされた。モスクワの国営中古品委託販売店では、日本製の中古テープレコーダーが日本円にして120万円もの高値を呼んでいる。

6日 ▶パリでブ書記長辞任説を否定、ソ連側スポークスマン。

▶ブ書記長、健康すぐれず仏ソ首脳会談の日程を変更。

▶仏大統領全欧安保に出席へ。

▶仏ソ経済協力協定に調印。

8日 ▶ソユーズ16号帰還。

▶世界食糧会議でのソ連演説に途上国失望。

10日 ▶サハラ大陸ダナ開発計画，日ソ合意文書に署名。

12日 ▶ソ連軍艦がエジプト訪問。

13日 ▶バム鉄道建設へカザフ共和国の調査隊協力。

14日 ▶三木首相，宮沢外相に訪ソ指示。

17日 ▶ソ連，シリアに武器供与。

▶宮沢外相訪ソに期待とソ連首相佐藤元首相に表明。

18日 ▶日ソ平和条約締結へ努力と訪ソ中の佐藤氏，タス記者に語る。

▶米通商法案のユダヤ人条項，ソ連への内政干渉と非難。

21日 ▶原子炉供給，来年1月，ブ書記長エジプト訪問の際。

▶シベリア開発への融資，米の利益に反すと上院外交委で報告。

24日 ▶ソウルと関係望まぬとソ連側，韓国側の報道を否定。

25日 ▶バルト海に世界初の原子力灯台。

26日 ▶エジプト外相と国防相急ぎ訪ソ。

27日 ▶地下出版のコワレフ博士リトアニアで捕わる。

28日 ▶ソ連向け米国産小麦の輸出120万トンに減少。

29日 ▶中東の闘争支持再確認，ブレジネフ書記長エジプト外相に。

30日 ▶ソ連，エジプト共同声明。

▶ブ書記長の中東訪問延期。

▶ソ連の武器援助再開遅延か。

▶ソ連 PLO がコミュニケ。